

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0370200305		
法人名	医療法人 孝仁会		
事業所名	グループホーム すまいる		
所在地	岩手県宮古市崎嶮ヶ崎第9地割39番地34 (電話)0193-64-3100		
評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1		
訪問調査日	平成20年11月27日	評価確定日	1月27日

【情報提供票より】(平成20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.5 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての 1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,200 円	その他の経費(月額)	1,500 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要(11月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	84 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩手県立宮古病院、伊藤歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>国道45号線沿いの新しく造成された住宅街に立地し、近くには県立宮古病院がある。母体の老人保健施設に隣接し、運営や防災などの面でのバックアップを得られるほか、同法人のホームが徒歩2分位の場所にあり日常的な協力関係が作られている。県内には同法人の関係するホームが全部で5箇所あり、利用者と家族も参加した合同行事の開催や、職員の交流・情報交換などを実施し、サービス向上に活かした取り組みが行われている。管理者の経験は長くは無いが、地域との繋がりを作ることや職員の教育などに積極的に取り組み、職員にもその気持ちが伝わり、一体となった運営が行われている。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価では9項目の改善項目が挙げられた。改善に向けた計画を立てたり、職員会議や運営推進会議で話し合うようなことは無かったが、管理者の判断により理念に関する項目を中心に改善の取り組みが行われ、地域との関係作りもこれまで以上に進められている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年までは管理者とケアマネの2人で自己評価を行ってきたが、今回は管理者から各職員に評価を行う目的を伝えた上で、職員全員が評価表の記入に取り組んでいる。これにより職員個々の評価やグループホームケアに対する理解が深まったと感じている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回決められたメンバーで運営され、ホームの運営状況や行事の報告が中心に行われている。評価結果の報告も行われているが、意見交換や改善課題の検討までは行われていない。ホームが積極的に情報を提供したり、意見を求めたりする活動が必要であり、そのために構成メンバーを変更したり、改善課題の内容についてより詳しい方を招いて話し合うなど工夫が望まれる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>隔月発行のホーム広報紙の他に、利用者の担当職員が、写真と生活の様子や健康状態などを書いたホーム便りを毎月家族に送り、個々の状態の報告がなされている。日々の変化等については、電話や面会に来たときに報告している。金銭管理は面会時等に確認印をもらっている。年一回家族アンケートを実施し、家族会を開催してアンケートの集計結果や要望について報告し話し合いが行われ、運営に反映させている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p>
重点項目④	<p>地域の行事への参加、隣接する老健施設の行事などへの参加を通じての交流が中心だが、地区の自治会に加入し、買い物はできるだけ近所のお店を利用して付き合いを大切にするなど、日ごろから地域の一員として活動できるように心掛けている。災害の発生に備え、防災訓練などを通じて避難への協力をいただけるような体制作りに取り組み始めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回外部評価の結果から、それまで使用してきた法人の理念はグループホームには合わない判断し、今年職員全員で話し合い「共に生き、共に笑い、助け合い、ゆとりある生活をしていく」との新しい理念を作った。「共に」の言葉の中に地域の視点も含まれているとのことだが、外部者には伝わりづらい印象がある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は覚えやすい言葉にしてあり、事業所内に掲示している。申し送りやケース検討、会議などの時に理念の確認をし、ケアや対応に困ったときは理念に立ち返って検討するようにしている。日々の活動の中で、地域の方がホームに来る機会が多くなるような取り組みが行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の自治会に加入し、夏祭りに参加したり、買い物はできるだけ近所のお店を利用するなどして付き合いを大切にしている。小中学校の行事見学にでかけたり、ホームに招待したりして交流している。地域の方から耕作地を借用し、野菜の栽培法を指導してもらったりと工夫が見られる。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年までは管理者とケアマネの2人で評価を行ってきたが、今回は管理者から職員に評価の目的を伝えて、職員全員で評価表の記入に取り組んでいる。これにより職員の評価やケアに対する理解が深まった。前回の外部評価では9項目の改善項目があったが、理念に関する項目を中心に取り組み改善が図られている。	○	前回評価結果に対する改善の取り組みは管理者の考えで行われてきたが、今後更に取り組みを効果的に行うことができるようにするために、改善計画を立てて計画的に取り組んだり、職員会議等で皆で話し合ったりすることを期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの運営状況や行事の報告が中心に行われている。評価結果の報告も行われているが、意見交換や検討はなされていない。参加者の利用者家族から防災対策についての意見が出されたこともあったが、全般には意見がだされることは少ない。	○	外部評価の結果を基に、改善に向けた取り組み方法やアイデアについて意見交換したり取り組みの進捗状況を報告するなど、運営推進会議をサービス向上のための討議の場として活かすことができるように期待したい。また、会議のメンバーは議題に合わせて詳しい方を召集するなどの工夫も望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	隔月で市担当者の所に直接出向き、広報紙を届けて顔を合わせる機会を作っているが、話題提供や情報交換などを行うまでには至っていない。欠席ではあったが、市の職員にホーム運動会への出席を要請するなど、積極的な働きかけが行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	隔月発行のホーム広報紙の他に、利用者毎の担当職員が写真と生活の様子や健康状態などを書いた「ホーム便り」を毎月家族に送り、個々の状態の報告が行われている。日々の変化等については、面会に来たときや電話で報告している。金銭管理については、面会時等に確認し押印いただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年一回家族アンケートを実施し、行事の後に開催した「家族会」でアンケートの集計結果や要望について報告して話合われている。家族の要望を聞いて運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動が比較的頻繁に行われていたが、現在は管理者が運営者に働きかけたことにより少なくなっている。管理者は職員に積極的に声を掛けて働きやすい職場作りに努め、利用者との馴染みの関係が崩れないように配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、経験段階に応じて各職員が年3回程度は受講できており、積極的な取組みが見られている。内部での研修会は隔月で19時から21時まで開催され、職員が交代で講師を担当して外部研修の報告などを行ったり、法人内の専門職種を講師にした講義も行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や沿岸ブロックのグループホーム協会の研修参加や、県内5箇所にある法人同系列のグループホームによる合同の行事開催・情報交換などが行われている。他に、地域のケアマネージャーの研修会、介護福祉士会での勉強会などにも参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の際は、訪問して本人に面会した後でホームの見学をして頂いている。入居に納得が得られない方は、面会回数を多くしたり、夜間だけ泊まってもらって馴れて頂くようにするなどの取り組みがなされている。老人保健施設からの入居のときも、繰り返し見学に来ていただいたり職員も面会に行ったりして、納得して利用できるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者から饅頭や漬物の作り方、着物の帯の結び方など教えてもらい、日常的な活動の中で本人から学ぶ場面を作るように取り組んでいる。時には調理の仕方職員が利用者に「叱られる」こともあるとのことで、共に支えあう対等な関係が感じられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人や家族から暮らし方の希望を聞くようにしているが、日々の会話の中でも気持ちの把握に努めている。本人の意思表示が困難な時には、家族や親戚などの関係者から、それまでの生活の様子などを聞き、それを元にした検討がなされている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会の際などに家族の要望を確認し、職員全員が参加するカンファレンスで介護計画が話し合われている。併設施設から入居した利用者の場合は、施設の相談員などがカンファレンスに参加することもある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に介護計画の見直しが行われている。状態に変化があった場合は、申し送りのときにミニカンファレンスを開催して話し合い、対応方法の検討をしている。その際家族には本人の状況や介護計画の見直し内容について電話で説明し、来所時に介護計画書を確認してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	美容院や買い物のためなど、個々の利用者の希望に合わせて外出の支援が行われている(無料)。簡易ベッドを準備して、家族が宿泊できるように準備がなされており、以前宿泊した家族もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医についての希望を確認しており、入居前からのかかりつけ医に継続受診している方は2名で、他はホームの協力医に変更している。医師に状況を適切に伝えられるようにするために、通院介助は職員の介助で行われているが、家族が行う際は医師当に状況報告の手紙を書いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしては終末期までの対応は行わない考えであり、併施設入所や病院入院などによる対応が行われている。重度化については、全介助の方、特に入浴が全介助になった方の継続入居は困難との考えであり、入居契約時に家族にその旨を説明し同意を得るように取り組みが行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入社時の法人本部研修で、接遇・マナーなどの研修が行われ、その後の現場研修で実際の援助や声掛けなどの配慮の仕方の指導が行われている。記録類は事務室内に保管され、個人情報管理に対する注意が払われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなホームの流れはあるが、その都度、声掛けをして本人の要望を確認し支援が行われている。職員数などにより対応困難な時は、状況や理由を説明して理解を頂くようにすることもありますが、できるだけ本人の要望に合わせてるように配慮して対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは、ほぼ半数程の利用者が本人の状態に合わせた作業に参加していた。食事の献立は、2～3日に1回利用者と話し合っており、食材の買い物は利用者数名と一緒にされている。食事中は比較的会話が少なく、食べ終えてから会話する傾向がある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日午後に行ない、ほぼ全員が毎日入浴している。希望があれば午前でも入浴の対応をしている。入浴を好まない方に対しては、本人に合わせた声掛けや誘い方の工夫などをして、無理なく入浴できるような配慮がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	化粧を自分で行う方が一人いるが、他の方にも外出の際は化粧やおしゃれの支援をしている。習字や日記を書いたり、行事で挨拶をしてもらったりと、それぞれの場面で持っている力を発揮できるように支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物希望に対応して出掛けることもあるが、心身機能の低下により散歩など日常的な外出の機会が少なくなっているとのこと。玄関内の日当たりが良い場所にイスが置いてあり、そこで寛いでいる方もいて、玄関外周辺への出入りは比較的自由に行われていた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の出入りが把握できるようにブザーを設置している。落ち着かず外に出たがる傾向の人は申し送り、職員間での見守り意識を高めて気をつけるようにしている。外に出る際には一緒に出るようにしている。ホーム内での見守りをしやすくするために、室内の壁を不低く改装し、玄関(出入口)の出入りを分かりやすくしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年2回実施しているが、夜間訓練は未実施で日中に行っている。災害発生時に近隣向けにサイレンが鳴る仕組みがあり、回覧板で協力依頼している。火災通報装置を押すと消防署の他に併設の老人保健施設や職員宅に連絡される仕組みになっている。来月消防署立会いで地震想定訓練実施を予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量が低下した方には、本人が好む食べ物を提供したり、刻み食やトロミを付けるなど本人の状態に合わせた食事を提供している。法人の管理栄養士がメニューをチェックし、栄養状態が悪化した方には栄養状態を確認して栄養指導を行ったり、カンファレンスにも参加している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の小上がりにはコタツがあり、玄関内は日当たりがよくソファが置かれ、訪問した際もそのソファに座り寛いで過ごしている方がいた。ホーム内には生花や季節の物が飾られている。共用空間が広いので、のんびりした雰囲気作りへの工夫が窺(うかが)われる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は、使い慣れた物を持参したり、本人の書いた習字を飾るなどの取り組みも見られるが、施設からの入居や家族の協力を得ることが難しかったなどの理由で、個人で持ち込んだものや好みの物がほとんど置かれていない居室も多く見られた。		